



兵庫県では、総務省が推進する「自治体情報セキュリティクラウド」の構築について、2016年10月8日から全国に先駆けて「兵庫県情報セキュリティクラウド」の運用を開始しました。

現在、IT分野においても積極的な取り組みを進めている兵庫県が、同県庁の基幹業務システムやデータベースなどのバックアップソリューションとして採用したのが、アクロニスの「Acronis Backup」です。いかなる状況においても基幹業務の停止が許されない官公庁において、リスクマネジメントのソリューションとして「Acronis Backup」が選ばれたポイントは何だったのでしょうか。その理由や経緯、さらには使い勝手などをお伺いしました。

兵庫県庁のバックアップをアクロニスがサポートする

2018年に県政150周年を迎える兵庫県。近畿地方では最大の面積を有し、550万人以上の県民が住む同県において、積極的に進めている分野のひとつが「情報セキュリティ対策」です。

例えば同県庁では、これまで市町ごとに異なっていたインターネット接続ポイントをひとつに集約することでセキュリティレベルを向上させ、メールやインターネット閲覧によるウイルス感染や、県や市町が保有する個人情報等の漏えいなどの防止をはかる「兵庫県情報セキュリティクラウド」を、全国に先がけてスタートさせました。さらに、県庁内のネットワーク(県庁WANと呼ばれています)を「個人番号利用事務系」「総合行政ネットワーク(LGWAN)接続系」「インターネット接続系」の3つに分割し、インターネットリスクから分離することでシステムの強靭性を高めています。

「兵庫県は情報セキュリティ先進県です」——庁内のネットワーク管理を統括する企画県民部 科学情報局 情報企画課 システム管理室 室長の津川 誠司氏は、そう語ります。

このような取り組みを進めている兵庫県庁が、庁内全体のシステムをバックアップするソリューションとして採用しているのが、アクロニスの「Acronis Backup」です。Acronis Backupは、OSやアプリケーションの再インストール、設定の再構築などを行うことなく、ディスクイメージのバックアップからシステム全体を復元できる「ベアメタル復元」を搭載するほか、オンプレミスからクラウドまで柔軟なストレージに対応。ランサムウェア対策も備えるなど、企業や団体のIT環境全体を保護することが可能です。

「兵庫県庁では、情報セキュリティクラウドや庁内ネットワークなどの管理サーバーをはじめとして、共通基盤システム、データベースなどに、80台以上のライセンスが導入されています。ほぼ全てのバックアップにAcronis Backupが利用されているというよいでしょう」(企画県民部 科学情報局 情報企画課 システム管理室 主査 野口 展敬氏)

Linuxで安定動作し機能性やコスパも優秀

Acronis Backupが、兵庫県庁のメインとなるバックアップソリューションに採用

【対象組織名】

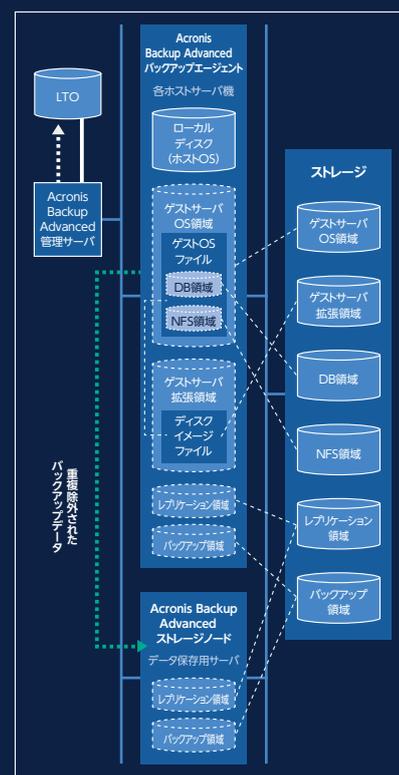
兵庫県庁

【対象ソリューション】

Acronis Backup



兵庫県庁舎外観



バックアップソリューションの運用構成例

されたタイミングは2012年。その理由の1つには、同県庁がRed Hat社の製品で共通基盤を構築したことにあります。というのも、Red Hat製品ではLinux OSを採用しているため、導入ソリューションを決める重要なポイントとして「Linuxでも安定して動作し、しっかりバックアップを取れる必要がありました」(津川氏)。

2012年当時、Windows系のソリューションは複数あったものの、Linuxで利用できるバックアップソリューションはほぼ存在しませんでした。しかし、Acronis BackupはWindowsサーバーでもLinuxサーバーでも、さらに言えば物理サーバーでも仮想サーバーでも利用できるうえに、それらの統合管理も可能です。そういった意味では、まさに唯一無二といえる存在だったわけです。

Linuxで利用できる点だけでなく、機能性の高さも選ばれた理由の1つです。例えば、2012年以前に同県庁が利用していた他社のバックアップソリューションは、動作がやや不安定で問題も起きやすいという状況にあっただけでなく、ベアメタルでのリストア機能を備えていないという弱点がありました。官公庁である以上、何らかの不具合や問題が発生した際には迅速な復旧が求められます。そのような背景を踏まえると、ベアメタル復旧に対応していることは大きなメリットとなりました。

また、機能面においては「重複排除」を備えていることも注目されました。なぜなら、近年はIT化が飛躍的に進んでいることに加え、兵庫県情報セキュリティクラウドの導入などもあり、庁内でバックアップを取らなければならないデータ量は加速度的に増えているからです。

「新しい取り組みも増えており、この数年でデータ量は数倍以上に増加しています。庁内の設備としては、この数年でストレージが500TB以上増設されていますから、バックアップもそれに応じたデータ量を取る必要があるといえるでしょう」(野口氏)

このような状況を鑑みれば、ストレージ容量やネットワーク帯域幅の使用量を低減し、効率的なバックアップをサポートする重複排除は、必要不可欠な機能といえます。

このような魅力を兼ね備えているAcronis Backupですが、それ以外にコストパフォーマンスが優れていたことも評価されたポイントになります。そもそも、官公庁は住民

の税金によって運営されているため、コスト感覚にはとても敏感です。

「2012年当時、Linuxで利用できることに加えて、ベアメタル普及や重複排除にも対応したバックアップソリューションはほぼありませんでした。それだけでも十分導入に値するソリューションでしたが、機能に対するコストを考えても、Acronis Backupはとてもメリットが高いと感じています」(津川氏)

震災を教訓に将来的にはクラウドにバックアップ

導入時のコストだけでなく、「教育コストの観点からもメリットがありました」と野口氏は言います。現在、兵庫県庁のネットワーク管理を担うシステム管理室には14人の職員が在籍するほか、委託のシステムエンジニアが約50人所属しています。新規で人材を採用した際には、各ソリューションを利用するために当然その扱い方を教育する必要があります。そういったなかで、アクロニスのバックアップソリューションは多くの企業や機関で導入されている実績があるため、多くのシステムエンジニアがすでにアクロニス製品を経験しているケースが多くなっています。このようなバックボーンが、新規の人材に対する教育コストや引き継ぎの手間を削減することにつながっているわけです。

そのほか、兵庫県は1995年に阪神・淡路大震災の被害を受けたこともあり、免震構造を庁内のデータセンターに取り入れるなど、災害対応を迅速に進めてきました。また、東日本大震災では遠隔地のデータセンターの重要性がクローズアップされたこともあり、今後は県としてバックアップソリューションのクラウド化にも力を入れたいと考えています。

「ただし、一般的な企業以上に官公庁は、データに対する信頼性や安全性、機密性の確保に十分注意しなければなりません。クラウドであれば、オンプレミスとクラウドを専用回線で接続するといったクラウドの環境を用意する必要はあるでしょう。今後は、IoTやAIなどの新しい技術なども活用し、県民の情報セキュリティや個人情報に対する不安を払しょくしていく考えです」(津川氏)

バックアップソリューションのクラウド化



兵庫県 企画県民部 科学情報局 情報企画課 システム管理室 室長 津川 誠司氏



兵庫県 企画県民部 科学情報局 情報企画課 システム管理室 主査 野口 展敬氏



庁内に導入されているサーバーの一部

においては、インフラ環境の進化としてネットワークのさらなる高速化が見込まれる「第5世代移動通信システム(いわゆる5G)」の登場が期待されています。これに加えて、ストレージをはじめとするハードウェアの進化も必要となるでしょうし、ソフトウェアにおける処理の効率化なども望まれるポイントです。

実際問題、兵庫県庁では現在、データ量の多いシステムや特殊な場合では、日々のバックアップに通常よりも時間を要するケースが発生しています。これに加えて、今後バックアップのデータ量がさらに増加すると見込まれている以上、バックアップ時間の短縮はアクロニスにとって喫緊の課題といえます。その一方で、バックアップデータからのリストアに要する時間も、さらなる短縮が不可欠であると考えます。さらなる効率化とスピードアップを目指し、アクロニスはさらなる機能アップと利便性の追求を進めていきます。